



## CONTENTS



- 2 ジュゴン保護勧告採択
- 3 勧告案へのコメント
- 4 開会式に参加/手作りブースでアピール
- 5 署名に明け暮れた5日間
- 6 バルセロナの風にたなびくバナー
- 7 総会に参加しました
- 8 ノレッジ・カフェ/イルカコンサート
- 9 合言葉は already/折り紙ジュゴン

初めてのスペインは感動的旅であった。それはジュゴンのお陰であり、SDCCの仲間たちのお陰であると感謝した。バルセロナ国際会議場でのIUCN大会では、我が仲間たちの活躍が注目され、「サン」の演奏とともに人だかりができて、署名集めも前回を超えてスムーズに行われた。特に紅型衣装の女性スタッフとジュゴンの着ぐるみに人気が集まり、ブース前だけでなく屋外パフォーマンスでも、各国参加者から記念撮影の申し込みが相次ぎ、私たちを喜ばせてくれた。

そして、ジュゴンの折り紙のプレゼントがことのほか喜ばれ、会員証カードケースに入れて首からかけてくれる人が日に日に増え、うれしい運動の広がりを実感していった。勧告案採択に向けての準備も着実に進められ、ついにSDCC勧告案が14日の総会で賛成多数で採択された。長い苦勞が報われたと思った。「みんなよく頑張った。感動した！」と、蜷川さんが誰かさんの真似をして笑わせてくれた。

## スペインに響いた『サン』の歌 SDCC 共同代表 海勢頭 豊

だが、2010年に向けて、いよいよ具体的な取り組みが求められる。ジュゴン保護年制定の成功にさらなる努力が必要となった。私はスペインに行く前に新曲「サン」を作り、沖縄でのイベントとしてコンサートを行った。その結果、「サン」は良い歌だとの評価を多くの人から得ることができた。今後「サン」とともに、ジュゴン保護キャンペーンを全国に広げようと考えている。

折しもサルバドル・ダリの彫刻「沖縄の海から出ずる太陽の神」が、沖縄で里帰り展示中である。そのダリの友人であったガルシア・ロルカが生まれた地グラナダを訪ねることも今旅でできた。ジュゴンとダリとロルカが、非武・非暴力の思想で結ばれていることを確信しうれしかった。

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)

ジュゴンイラストバナー23枚がバルセロナの空を背景に翻りました。



がんばった署名集め。地元の高校生  
たちと一緒に、ハイポーズ！





## 2010年に向けた闘いの道筋を明らかにした勧告

10月14日午前10時35分、私たち6団体が提案した勧告案（MOTION 027）が会員総会で賛成258、反対9、棄権89の圧倒的多数で採択されました（勧告文は別紙）。「2010年国連国際生物多様性年におけるジュゴン保護の促進」を国連やIUCN、日米両政府に求めた勧告は、会場で寄せられた署名数96か国1749筆に現れているように、沖縄ジュゴン保護を求める国際世論の反映だと思えます。

具体的には、ボン条約（移動性の野生動物の保護に関する条約）の「ジュゴン保護覚え書き」に日本政府が参加することや、ジュゴン保護のために日米共同の環境アセスメントの実施などを求めています。2010年10月に名古屋で開かれる生物多様性条約第10回締約国会議（議長国・日本）が、沖縄ジュゴンの保護を求める闘いの重要な節目になります。議長国日本政府にとっても、逃げるできない課題を背負わされたことになりました。

ジュゴン保護覚え書きは、ボン条約のジュゴン保護を求める勧告（2002年）をふまえて関係国が「保護と管理のための理解と行動計画」の議論を積み重ねて2007年に作成されました。覚え書きには漁網対策や海草藻場の回復、地域住民の参加などがうたわれ、関係国すべてが参加することを求めています。すでに11か国が参加し、ボン条約に加盟していない日本も参加できます。ジュゴン保護の国際的な流れが関係国を動かし、日本政府の姿勢を問うています。

また、ジュゴン保護のために日米共同のアセスメントを勧告しました。日本政府には、新基地建設による影響についてゼロオプションを含めた環境アセスメントとともに、影響を回避し緩和する行動計画の作成と公表を求めました。米国政府には、日本と共同で行動計画の作成を求めています。勧告は、今行われている環境アセスメントや、米国連邦裁判所のジュゴン判決の具体的な命令に影響を与えるに違いありません。

IUCN勧告の履行を求める国会請願署名や、「ジュゴン覚え書き」に日本政府の参加を求める取り組み、ジュゴン訴訟と連携した日米共同の環境アセスメントの実施など、「基地ではなく、保護区を」の闘いを2010年に向けてさらに広げましょう。



総会風景。10日から始まった総会では、まず4年間の活動報告がなされました（下）。



総会2日目11日午後2時からの記者会見の様子。イタリアなど海外記者や日本の共同通信から取材を受けました。（総会日程は10/10～14）



# 原案を維持し、勧告対象を明確にした勧告

会員総会初日の10月10日午後7時から9時40分、4日目午後1時30分から2時30分の2回、コンタクトミーティングが開かれました。コンタクトミーティングは関係者や関心あるメンバーが集まり、調整役のファシリテーター（決議作業委員会から派遣）の下で対立する意見について合意を追求する会議です。言葉（英語）のニュアンスについて議論になったときは、「日本語で」と笑いながら明るく振る舞うメキシコ・NGOのファシリテーター。一方、外務省地球環境課長（環境省野生生物課は外務省に一任）は、疲れてふて腐れ、椅子からずり落ちる姿勢に。

論点は、日本の環境アセスメントの問題点と、ジュゴン保護覚え書きへの参加。1日目の大半は日本の環境アセスメントについて時間を費やしました。外務省が「新基地建設は閣議決定だからゼロオプションはあり得ない」と、ファシリテーターが提案した「オール・オプション」に「フィージブル（実行可能な）」の文言追加を求め、我々は「ゼロ・オプション」が含まれることを明記することを求めました。日米共同のアセスメントについては、外務省が「米国政府に協力を求める必要はない」との意見をふまえて、総会が米国政府に日本政府が行う環境アセスに参加することと、行動計画の準備に協力することを求める表現に変えました。

ジュゴンの覚え書きへの参加については、外務省が「参加する予定はないので、『すべての国は参加する』に『イフ・ネセサリー（必要ならば）』を挿入すること」を求めましたが、国際的な流れを進めるか反対するのかと批判し修正を拒否しました。

最後に、ファシリテーターは意見が対立した項目について個々に総会で採択することを提案しましたが、日本政府は拒否し、私たちの案を総会にかけることに合意しました。自らの消極的な姿勢が代議員の反対に遭うことを恐れたからです。採択された勧告は6団体が提出した原案の内容を維持し、勧告の対象をより明確にするものになりました。

## 勧告案へのコメント 日本政府と提案団体



総会で勧告案が採択される前に関係者は発言が求められます。外務省は地球環境課長が、提案団体からはSDCC吉川が発言しました。日本政府の発言は、録音に基づき要約したものです。

### （日本政府）

勧告案は日本政府に普天間代替基地建設に関わる環境アセスメントを求めているが、日本政府はすでに環境アセスメントに着手している。日本の法律や規則に基づいて、学者、研究者、NGOの意見を環境アセスメントに反映させることを要求されている。また環境アセスメントの結果、ジュゴンに対して悪影響があると判断された場合、影響の回避、緩和の施策を要求されている。また、日本政府は、ジュゴンとその棲息地の重要性を認識しており、すでに地域住民の意見を取り入れるなどジュゴン保全のための施策を行っている。

提案団体の事実認識の相違ならびに不必要な勧告を含むこの勧告案を日本政府は支持できない。

### （提案団体）

われわれの勧告案は、生物多様性を推進する国際的動きと、ジュゴンの保全に向けて行われてきたこれまでの取り組みを反映している。日本政府が主文第2項目に対して提案した修正／訂正案は、ジュゴン保全への「覚え書き」への日本政府の参加を除くものであり、また主文第2項全体を削除するものであった。主文第3項に対して提案した修正／訂正案は、日本政府がジュゴンの棲息地における米軍基地建設に対して行う環境アセスメントから「ゼロオプション」を排除するものであった。その提案は、環境アセスメントの結果がどうであれ、日本政府が基地建設を行うことを可能にするものである。以上のような日本政府の修正／訂正案には、われわれは同意できない。

最後にこの勧告案主文第3項における「全ての選択肢」は、「ゼロオプション」を含むものであることを明確にしておく。

# IUCN 開会式に参加！

10月5日、第4回世界自然保護会議の開会式に首都圏（小平、矢敷）の2人が紺型の着物を着て参加しました。開会時間17時の予定が大幅に遅れ18時に開会。

最初に舞台の巨大スクリーンに多種多様の動植物の映像が流れ、ジュゴンも映りましたが、画面の展開が速くてカメラに収めることが出来ませんでした。

「What kind of do we want?」が映し出された後、挨拶が始まりました。

IUCN 代表の Valli Moosa 氏の30分の長い挨拶、次にタイ国の第3王女が挨拶された後7人が挨拶された。最初の4人の挨拶が一人終わるごとに IUCN の基本の4つのテーマのパフォーマンスがオーケストラの生演奏で順番に演じられ、最後に「ACTION」の垂れ幕が掲げられました。

これからもジュゴンを守るために、アクションしていきましょう！！

矢敷克子

～4つの基本テーマ～

- ・ AWARENESS (知ること)
- ・ EQUITY (公平、公正)
- ・ SUSTAINABILITY (持続する)
- ・ BIODIVERSITY (生物の多種多様)



開会式 4つの基本テーマの垂れ幕



世界各国のNGOや政府機関のブースが並びます



SDCCもWWFジャパン、日本自然保護協会とともに、ブースを出しました。ジュゴンや淀野古・大浦湾の写真、イラストバナー2枚を貼ったほか、日本で集めてきた折り紙のジュゴンで飾りました。「ジュゴンを守りたい」という日本のみんなの気持ちが海外の参加者に伝わったかな？

## 手作りブースでアピール

今回IUCNが開会式で掲げたテーマは「アクション」まさにSDCCにピッタリ！バベルセロナでも思いっきりアピールしてきました。周りのお金持ち団体には出せない手作り感いっぱいブースを拠点に、資料を並べて置くだけでなく日本のジュゴン保護を世界の人に届ける為に賛同署名のお願いを求め声をあげ、踊りや音楽でもアピールをしました。

今までの活動で皆さんに書いてもらったバナーやジュゴン折り紙も大きな力となって世界の人達に伝わったと思います！ありがとうございました。

IUCN勧告の履行を求め更なるアクションが必要です、これからも共に行動して行きましょう！ご協力お願いします。是非ともIUCN報告会に足を運んで下さい！ 小平裕美



会場入り口のフロアには、「生物多様性」「気候変動」「カタール地方」などのテーマ別コーナーが設けられ、たくさんの人が行き交っていました。ここでもアピール！

## 署名に明け暮れた5日間

ブース前はもちろんですが、今回は会場入り口の大きなフロアにも出没し署名集めをしました。「ジュゴン知ってますか」「日本の沖縄でジュゴンが危機的状況にあります」「ジュゴンを救いたいです」「どうか署名をしてください」。たどたどしい英語でまくしたてると、ほとんどの人が署名をしてくれました。もちろん英語が通じない人もいますが、その時はリーフのジュゴンを見せ、身振り手振りで応戦して、何とか署名をして貰います。その後には、プレゼントを差し出し、「サンキュー、グラスアス、メルシー」といった具合でした。エイサーの衣装が効き目あり。私ではなく衣装が「ビューティフル!」。何度も記念撮影に収まった次第です。署名の感触からも、「ジュゴン保護」が会場を規定していたことは間違いないと感じた次第です。 有賀精一

## 「基地より保護区」の共感広がる



「Hi! We come from Japan. We are NGO for dugong conservation」  
 「We submitted a motion for Okinawan dugong conservation.」  
 「If you agree with our motion. Sign please!」

という怪しげな「英語」で話しかけると、ほとんどの参加者がこころよく署名に応じてくれました。

前回のバンコクでの私たちのキャンペーンをおぼえている方もいました。今回の勧告案をじっと読んでいて、「ジュゴン訴訟は Good News じゃないか、今度も応援するよ」と署名をしてくれます。また自分が署名をした後で、自分のブースの係者を「君も署名しなよ」とつれてきてくれる人もいました。

辺野古大浦湾と基地建設予定範囲の写真を見せて、「No, U.S Base! Yes, Dugong Conservation Area!」と説明すると、「うんうん」という感じで共感してくれます。「ブッシュももうすぐ終わりだぜ」という人もいました。

前回のバンコクに増して、「基地より保護区」への支持共感を感じた署名行動でした。

松島洋介



フォーラムで集まった署名は96か国  
 1749筆! がんばりました!



2004年のバンコク会議の報告集を出版された女性(右)。SDCCが配ったジュゴン缶バッジの写真が載っています。

# バルセロナの風にたなびくバナー

バナー（横断幕）とフラッグ（旗）  
ともに手作りの作品が自然を守る心をつなぎました

昨年1月から街頭やイベントで集めていたジュゴンバナー、全部で25枚になりました。「全部持って行きます」と重いのをがんばって持っては行ったものの、狭いブースでどうやってアピールすればいいのかが、ちょっと悩みの種でした。



ランドライフのフラッグ



SDCCのジュゴンイラストバナー

ところが心配は無用でした。会場入り口の前の芝生の広場に「ここにバナーを張ってね」といわんばかりの、おあつらえ向きの場所がありました。子どもたちが描いたイラストに注目があつまりましたよ。そしてお隣の三角の旗はイギリス・リバプールの『ランドライフ』というグループのもので、都市近郊で人と自然をつなぐ活動をしているそうです。なんと『ランドライフ』のスタッフの方から「リバプールでアピールしたいのでジュゴンバナーを貸してほしい」という申し出がありました。リバプールにジュゴンバナーが出現する日も近いかもしれません。

山根富貴子



民族衣装が大人気☆互いに記念撮影



英語での質問にも一所懸命答えます



ジュゴンの折り方を習いに来られたスイスの方



沖縄ジュゴンのことを書いた自著を手にもポーズする参加者

# ♪サンよ 世界の海を 清めて守りたもれ♪

ブース前での海勢頭豊マブイぐみミニコンサート。この会議のために作られた「サン」（ジュゴンのこと）や、「ザンの海」「琉球讃歌」などの曲に立ち止まって聞き入る人も多く、ブース前は大いにぎわいました。



ジュゴングッズの  
販売  
マスコットが  
よく売れました



(上) 大人気の着ぐるみジュゴンとエイサーで、署名がいっぱい集まりました  
(左) WWFのペンギンパフォーマンス。「STOP CO2 温暖化を止めろ！」

## 総会に参加しました ~圧倒的多数の採択~

私が参加したのは、仕事の関係で10/5~14のうち10/10~14のみでした。すでにブースもほとんどが閉じていて、総会がメインになっていました。そのような中でも、人影もまばらなブースを回って署名のお願いをしました。ほとんどの方が「もう署名はしたよ!」という対応でしたが、26筆を集めることができました。

コンタクトミーティングでは、IUCN事務局のもと、日本政府（外務省、環境省）との話し合いが行なわれました。私たちの提案文書に対して、事細かく指摘をしてきましたが、私たちとしても理解できる内容ではないので、結局原案通りの提案となりました。総会では、圧倒的多数の賛成でジュゴン保護の勧告が採択されました。日本政府は採択を棄権しましたが、国際会議の場での勧告を重く受けとめるべきです。

三村昭彦



賛成258、反対9、棄権89

SDCC が中心となり企画したノレッジ・カフェには、8カ国から20名余の参加があり、日本のNGOが提案した勧告案を具体的に進めていくための展望と課題について活発な意見が交わされました。

生物多様性条約のデイビッド・エインズワース氏は、2010年国連生物多様性年に向けて行われる国際レベルのイベントとタイアップさせ ジュゴン保護を推進していく可能性を示唆しました。

フィリピンやタイのNGOならびにインド洋委員会のメンバーは、ジュゴン保護の「覚え書き」への参加国を増やすことの重要性を指摘し、「覚え書き」への参加を契機に具体的な動きを作っていくべきだという見解を示しました。それに対して日本政府は、「覚え書き」に参加しなくてもジュゴン保護は可能であると反応しました。

## ノレッジ・カフェ

普天間代替施設建設に関わる日米共同アセスに関しては、海洋哺乳類保護で活躍する米国のNGOから、米政府へ圧力をかけていくという表明がありました。NACS-Jの吉田正人氏は、ジャンクサワッチのデータをもとに「沿岸案」がジュゴンの棲息地に影響を与えることを示し、NGOが政府のアセスに関わる事の重要性を指摘しました。

またボン条約のダグラス・ハイクルさんからも、メールを通して「覚え書き」に関わる説明やアドバイスがありました。

今回のノレッジ・カフェを通して確認できたことは、ジュゴン保護はすでに国際的な流れであり、その為の枠組みも整ってきていることです。このことを私たちの活動にしっかり反映させていきましょう。

吉川 秀樹



イルカさんと神部冬馬さん

10月8日バルセロナにおいてIUCN親善大使を務める歌手のイルカさんがコンサートを開催。親善大使はイルカさんが初代で2期目。当日はイルカさんが私達のブースを見舞いコンサート支援の依頼をうけました。そうです、いくら日本では有名人でも海外、しかも日本人は私たちを含めて10数名~20数名・・・となるとこれはがんばって宣伝しなくっちゃ！当日は朝から「コンサートがあります〜！」と大きな声をあげてピラマキをしました。ピラは皆さん受け取りがよかったもののすごいピラの数にちょっとしんどかった〜。

## イルカコンサート開催！

でもその甲斐あってか会場はたくさんの方が見に来てくれました。曲はイルカさんといえば代表的な「なごり雪」でスタート。あとはアップテンポな曲やバラード、IUCNを意識して自然をテーマにした曲などで海外の方にもうけはよかったようです。途中ボランティア参加の息子さんである神戸冬馬さんも1曲披露。彼はマイレージを使ってきてくれたようです。さわやかな風を感じたひとときでした。

上田 千鶴



2000枚の折り紙ジュゴン(上)  
(左) ノレッジ・カフェの様子



# 合言葉はalready...

前回のバンコク大会に続き、2回目の参加となりました。

4年前と変わらず、英会話が苦手な私は不安で仕方がなかったのですが、今回は前回とは少し違い弱気な私を支えてくれる素晴らしいグッズと一緒に。それは千羽鶴を真似て友人、親戚の叔母、実家の母たちと折った2000枚の折り紙ジュゴン。そして280枚のフェルトに書かれた一言メッセージ。また今回のためにと友人が作ってくれたジュゴンドレス。どれもこれもジュゴンを思う温かい気持ちや優しい思いが詰まっていて、言葉の壁に阻まれ気持ちが萎えそうになる私を励まし続けてくれました。

署名活動を始めて4日目ともなると大勢の方が『already signed!』（もう署名したよ）とニコリ笑顔で答えて下さるようになり、毎日とても疲れましたが、この一言によって充実感、達成感を味わうことができました。

野田啓子



↑ジュゴンドレス

↓フェルトの一言メッセージ



世界中から集まった参加者たち。その中でも民族衣装の方はとても目立ちました。民族や文化への誇りが感じられました。



## 折り紙ジュゴンが大活躍

バルセロナでの国際会議、どきどきしながら参加しました。

『自然保護区を創る!』このことに魅かれて、嬉しくて、希望を感じていました。そんな思いを世界中から集まる自然を愛する仲間たちにどんなふうに伝えよう。楽しさや喜びや希望が伝わったらいいなと思っていました。

ブースはバナーや千頭じゅごんやかわいいグッズで飾り付け、紅型衣装をきて、折り紙じゅごんと署名版を持ち、笑顔でにこっ♪たくさんの人たちと笑顔を交わすことができました! 折り紙じゅごんが大活躍、会場中を泳ぎまわっていましたよ。ジュゴンパワーが満ち溢れていて、ほんとにわくわくしました。

さあ、次は『自然保護区』の実現目指して、またできることを始めて行こう。

池側恵美子☆



会員証カードケースに入った折り紙ジュゴン

# IUCNカンパ報告とお礼

ありがとうございました

皆さんの多大なご支援で沖縄ジュゴン保護の勧告を実現しました。現地で署名を集めるためのチラシとブース代金、それに海勢頭バンド3名のうち2名、通訳1名の旅費宿泊費などに使わせて頂きました。2010年国際ジュゴン年の成功に向けて決意しています。今後ともよろしくお願いします。

カンパ 993,000円

支出合計 1,190,134円

チラシ 205,996円

参加費 120,207円

ブース 159,955円

保険料 8,690円

旅費宿泊 695,286円



## バルセロナ\*報告会

<IUCN第4回世界自然保護会議(バルセロナ)参加報告会>のお知らせ

\*東京\*

■日時 11月15日(土) 18時開場 18時半開会

■場所 港区立勤労福祉会館 (JR田町駅西口徒歩5分)

■資料代 500円

■講師 WWFジャパン 花輪伸一 「勧告の意義」

日本自然保護協会 吉田正人 「2010年国際生物年とジュゴン保護ネットワークづくり」

SDCC事務局長 蛭川義章 「IUCN大会の成果と今後の方針」



\*大阪\*

■日時 11月16日(日) 18時開場 18時15分~20時30分

■場所 ドーンセンター 視聴覚スタジオ (地下鉄・京阪天満橋駅下車)

■資料代 500円 (学生・フリーター300円)

■講師 WWFジャパン 花輪伸一 「勧告の意義」

SDCC事務局長 蛭川義章 「IUCN大会の成果と今後の方針」



\*沖縄\*

那覇 11月10日(月) 18時~ 沖縄船員会館(沖縄県那覇市前島)

★ eメールでのイベントのご案内をご希望の方は、[info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp) までお知らせください

### ☆ ボランティアスタッフ 募集 ☆

SDCC では常時ボランティアスタッフを募集しています。

ネットでのよびかけ、街頭での宣伝、グッズやイラスト作成、事務所での整理や発送作業など、お手伝いいただける方はぜひご連絡をお願いします!

*Editor's Note* バルセロナでは、みんな一所懸命出来る限りがんばって、署名を集めました。「このブースが一番アクティブだね」とか、バンコク会議にも参加していた人が「あなたたちのことはみんな覚えてるわ」とか、声をかけてくださるのがとてもうれしかったです。これからはこの勧告を実現させるために、がんばります。ご支援よろしくお願いします。(Y)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.41 2008年10月28日発行  
 ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)  
 Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2 1  
 第1千代田ビル301 なかま共同事務所内  
 ○ <http://www.sdcc.jp/> ○ [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)  
 (関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302  
 TEL/FAX 06-6353-0514

